

ALS という病気になり、今まであたり前だったこと、歩くこと、触れること、話すこと、他にもたくさんのことが奪われて。でも、病氣と向き合っていて気がついたことは、心だけは奪われないことでした。それと、たくさんの人に支えられていることへの感謝！その気持ちを込めて、「ありがとう」を書きました。字を書きたいと思ったのは、できないことが少しずつ増えるけれど、できないことより、いまの私にできることをと思ったから。

(豊嶋明子)

「ありがとう」の他にも「笑顔」、「家族」等、ご本人の想いが作品に込められていたと思います。病氣と向き合いながらも前向きに、あきらめない姿からたくさんのことを教えていただきました。(担当 OT : 吉岡)

ありがとう

今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



「赤富士」

当院では、病棟活動でモザイク画を制作しました。「①紙粘土を丸める、②丸めた粘土に筆を使って色を塗る、③原画を見ながら木枠に貼る」の各工程をグループに分担して、いつでも誰でも参加できる環境をつくりました。集団作業療法の特性を活かし、活動中は談笑したり、配色等を相談しながら、一人ひとりの力を合わせた共同作品です。制作期間に半年間をかけた大作が完成しました。モノづくりはその携わった人たちの「証」として記憶や自信となり、次へのステップにつながる活動の一つではないでしょうか。(担当 OT : 片岡)